

文化的施設との連携による中心市街地活性化

1. 中心市街地とは…

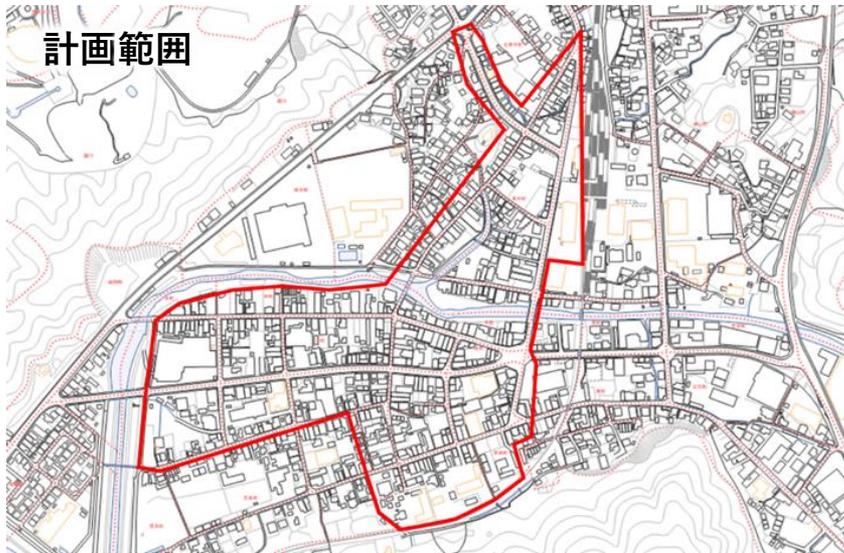
第2次四万十町総合振興計画

四万十町市街地再生基本構想

総合振興計画を補完し、窪川、大正、十和の市街地再生に向けての整備方針を位置づけ（ゾーニング）

四万十町窪川地域中心市街地活性化計画

基本構想を受け、窪川地域中心市街地の目指す姿を示すものとして、具体的な取り組みを位置づけ



昭和に商店街として栄えた本町通商店街、吉見町商店街に加えて、お遍路効果を期待できる岩本寺から古民家カフェ半平までの通りを中心とした範囲を設定。

四万十町窪川中心市街地活性化協議会

事業の提案

事業の承認

協議会ワーキンググループ

事業の実施

目標

窪川中心市街地の活性化に向けた商店街の「にぎわいづくり」

令和2年度の事業内容

しまんと街おこし応援団

- 古書街道
(あっと本町：にぎわい拠点、古書街道1号店)
- まち遊び
- 自由なアトリエ
- くぼかわ街あかりプロジェクト
- くぼかわ案内MAP
- くぼかわ発の体験型観光事業 等

四万十町商工会

- チャレンジショップ事業

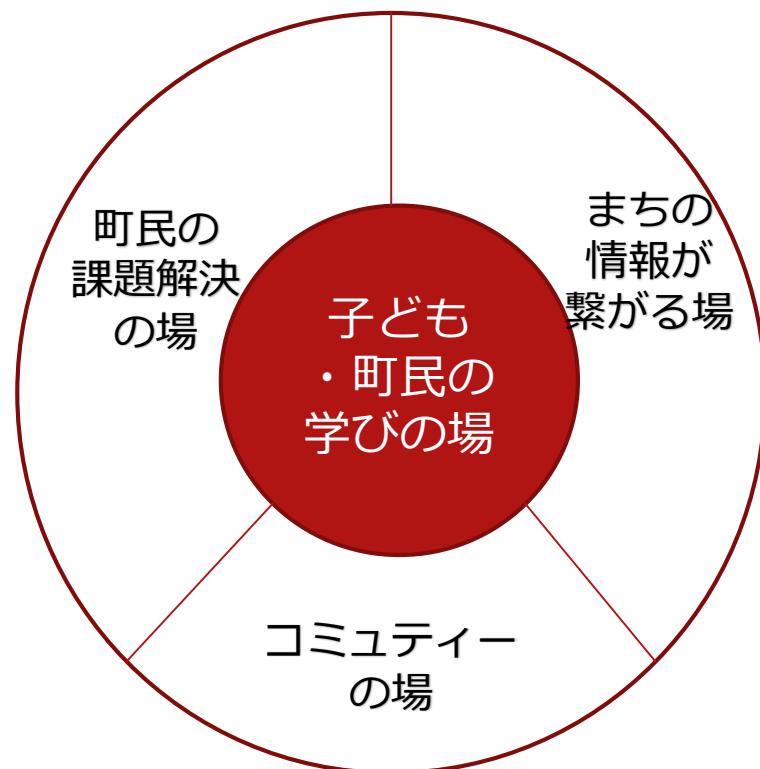
2. 窪川地域中心市街地の活性化に向けた取組



商店街と周辺施設（文化的施設等）で行う取組みの**相乗効果**で中心市街地の活性化を推進

『子ども達の未来に投資する』 という選択！

四万十町では【子ども達の未来のために】
新しい文化的施設を建設するという投資を行います。
この投資が子ども達の学びを促し、町が賑わい・町民
みんなが笑顔で活力ある「よりよい未来」を創造します。



町では「出産・子育て施策によるまちづくりの好循環化」を目指し、

・『子ども達を核としたまちづくり』

・『学ぶ町民と人づくり』

をコンセプトに新しい文化的施設の整備を行います。

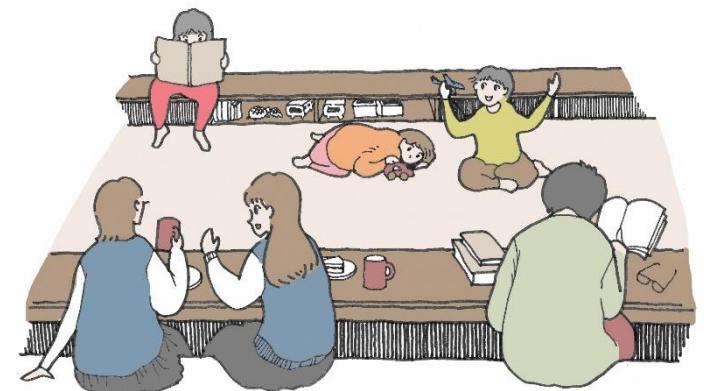
この【子ども達の未来への投資】が子ども達だけでなく、現役世代の大人や高齢者の方と「いろいろな情報」という言葉をキーワードに繋がっていくことにより「みんながよりよく生き」、「まちが賑わう」という好循環化へ転換していきます。

町民の課題の数だけ新しい 文化的施設的需求がある

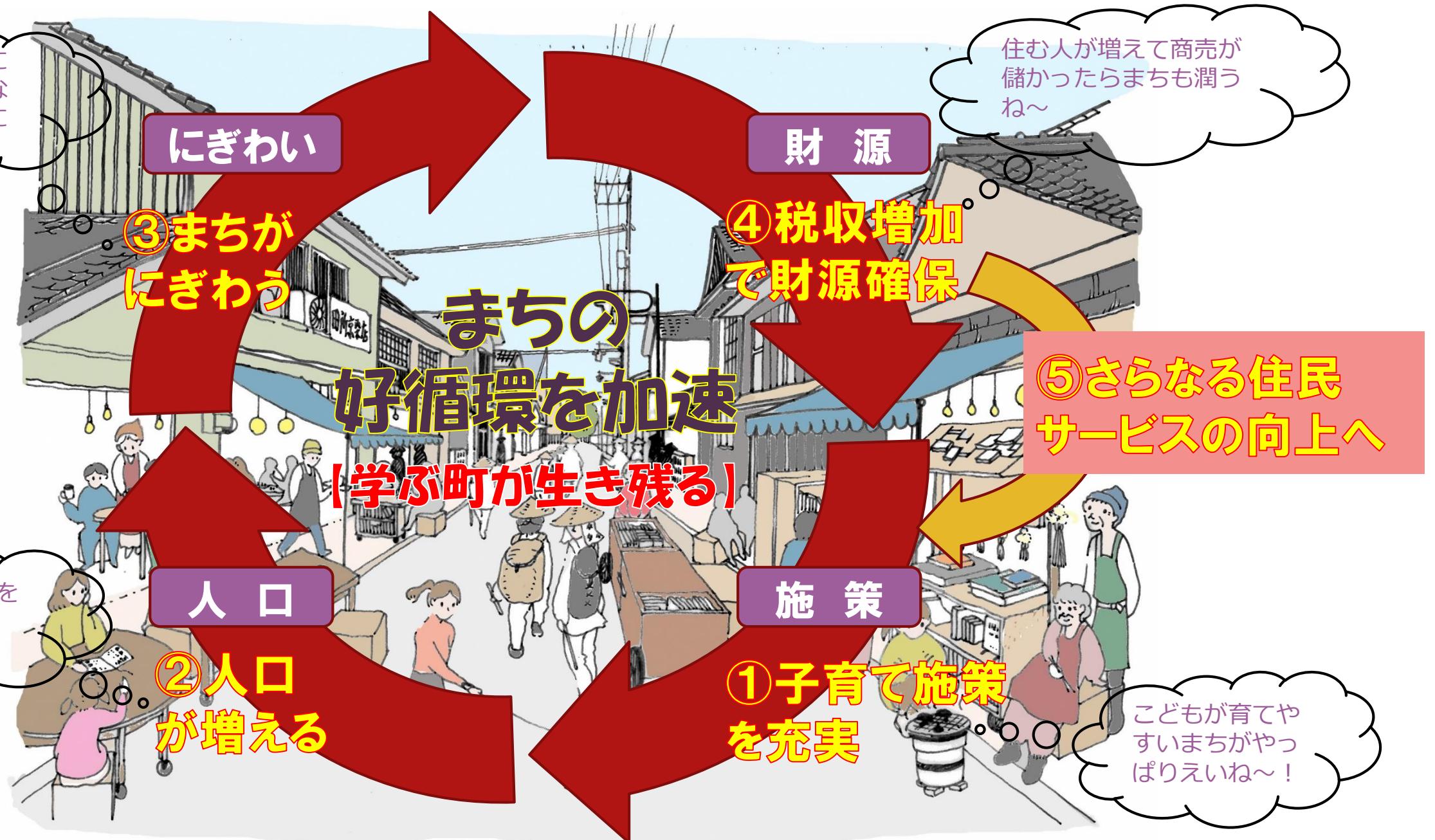
(読書好きの人だけの施設ではありません)

【こんな施設】

- ①町民の皆さんが日々の生活の中で抱えている仕事や健康、子育てなどの色々な悩みや課題の解決に「調べたり」・「だれかに繋げたり」して解決に向けて応援していきます。
- ②色々なコミュニティとの繋がりを作り「新しい生き方」の手助けとなる活動を行っていきます。
- ③これからの子ども達に次世代を生き抜く力として「想像／創造体験」、「最新の情報と技術の体験」などを通して「課題を発見し解決していく力」を育てる施設を目指します。

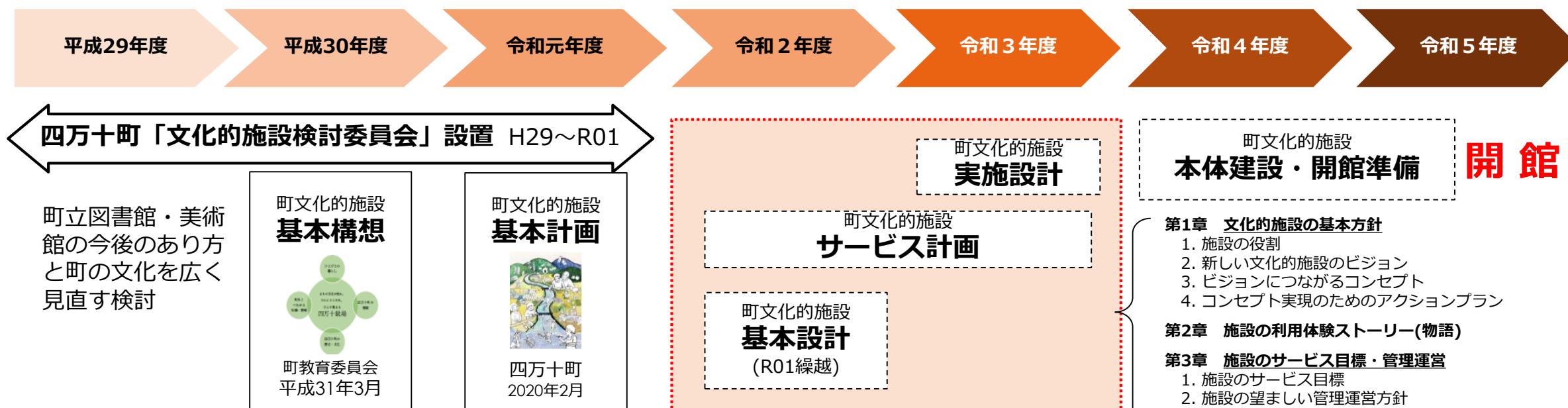


新しい文化的施設の整備が まちの好循環を加速する



スケジュールと事業費

◆作業スケジュール



- 町文化的施設 **第1章 文化的施設の基本方針**
- 施設の役割
 - 新しい文化的施設のビジョン
 - ビジョンにつながるコンセプト
 - コンセプト実現のためのアクションプラン
- 町文化的施設 **第2章 施設の利用体験ストーリー(物語)**
- 町文化的施設 **第3章 施設のサービス目標・管理運営**
- 施設のサービス目標
 - 施設の望ましい管理運営方針
 - 想定する立地とまち全体とのつながり
 - 想定する面積と諸室仕様
 - 管理運営のあり方
- 町文化的施設 **第4章 施設の建設計画・スケジュール**
- 今後の整備手法とスケジュール

◆事業費（本体工事費）

※これは、あくまでも基本計画ベースの試算です。（現在実施している基本設計において概算費用が算出されます。）

※基本計画ベース 2,000㎡×750千円（㎡あたり）=1,500,000千円

【本体工事に要する費用】
1,500,000千円（15億円）

【財源内訳】

- ・地方債（借金）1,425,000千円
- ・一般財源 **75,000千円** ①



【町が実際に支払う総額】

① + ② = **539,102千円** が町の支払う総額です

※539,102千円÷47年（対応年数）≒11,470千円

町の支払額 約5億3千9百万円	国が補填してくれる分 約10億8千2百万円
--------------------	--------------------------

★旧合併特例事業債を活用
元利償還金の70%が国より交付